

平成18年8月21日

各位

株式会社レックス・ホールディングス  
代表取締役社長 西山 知義  
(JASDAQ・コード 2688)  
お問合先：常務取締役最高財務責任者 福井克明  
TEL 03-5544-2688

特別損失の発生並びに平成18年12月期中間(連結・個別)及び通期(連結・個別)  
業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、下記の通り特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成18年12月期(平成18年1月1日～平成18年12月31日)の業績予想について、平成18年2月17日に発表いたしました当社「平成17年12月期決算短信(連結)」に記載の業績予想を下記のとおり修正いたします。

## 記

## 【I】特別損失の発生について

## 1. 特別損失の概要とその理由(中間期)

当社では当期から「固定資産の減損に係る会計基準」の適用年度であり、減損会計を適用することによる特別損失は連結で485百万円となります。減損の対象となるものは、主に不振店舗の固定資産であります。その他、外食事業において加盟契約解除損が358百万円、固定資産除却損が151百万円、マーケティング・データやノウハウ等の資産における評価を見直したことによる特別損失が1,704百万円計上されました。また、物流事業において昨年導入した国産牛の在庫評価について、その後豪州産をメインとしたメニューに移行したこと等により賞味期限切れもしくは賞味期限が短くなったことによる損失が187百万円計上されております。CVS事業におけるリース解約損失177百万円、貸倒引当金繰入200百万円の計上等を主因に中間の特別損失額は3,390百万円となりました。

## 2. 特別損失の概要とその理由(通期)

上述の中間期の特別損失に加えて、下期においては実験業態の抜本的改善や改廃を加えることで発生する、店舗閉店に伴う固定資産除却損等で計1,300百万円を、また国産牛在庫の最終的な期限切れ分についての特別損失を保守的にみて800百万円程度計上する予定です。なお、文中の実験業態とは、外食・CVS・スーパーの各事業において、新業態についてフランチャイズ募集を始める前の実験を繰り返す段階にある業態を指します。

## 【Ⅱ】業績予想の修正について

### 1. 中間連結業績予想(平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	81,000	2,700	800
今回修正(B)	79,790	1,000	△1,340
増減額(B-A)	△1,210	△1,700	△2,140
増減率	△1.5%	△63.0%	—
(ご参考)前年同期	67,612	1,422	351

### 2. 修正理由

売上高につきましては、外食事業において牛角・レッドロブスター等の一部業態が大幅に計画を下回ったこと、売上計上基準の変更等により加盟開発の実質寄与期間が短縮されたことなどを主因として、79,790 百万円となる見込みでございます。

経常利益につきましては、店舗売上減少に伴う利益減で約 500 百万円、外食・CVS 事業における加盟金計上基準の変更に伴う影響により約 300 百万円、貸倒引当金の保守的な繰り入れにより約 100 百万円、加盟金等の中間期末入金予定のものが入金遅延等により下期に繰り越されたことにより約 600 百万円、閉店店舗債権引当等その他の要因で約 200 百万円、それぞれ計画に対し減益となり、1,000 百万円となる見込みでございます。経常利益について、事業セグメント別に計画対比で見ますと、外食事業で約 1,000 百万円、CVS 事業で約 300 百万円、物流事業・工事関連事業で各 200 百万円の未達成となりました。

中間純利益につきましては、従来の計画 800 百万円に対し、上述の経常利益 1,700 百万円の未達による影響で約 900 百万円の減益となり、加えて、冒頭で述べましたように特別損失が従来の計画値を約 1,900 百万円上回る 3,390 百万円計上されるに至り、税効果等による約 650 百万円の差し引きを含めまして、1,340 百万円の赤字となる見込みでございます。

### 3. 通期連結業績予想(平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	190,000	10,500	4,500
今回修正(B)	170,000	6,400	0
増減額(B-A)	△20,000	△4,100	△4,500
増減率	△10.5%	△39.1%	△100.0%
(ご参考)前期実績	148,373	6,370	3,077

### 4. 修正理由

上述の中間業績の修正理由に記載しました通り、各事業における出店政策・新業態開発政策において期初の計画と大きく乖離しており、特に外食事業においては大幅な出店不足となる見込みと

なりました。また、事業の収益構造そのものを大きく転換することが必要な状況と認識し、当期の残された時間においては、短期的な収益の計上を優先することなく、来期以降の永続的な発展を目指した構造改革に入る必要に迫られております。加えて、当社では本年度から、事業活動によるあらゆる売上計上(加盟金、協賛金、店舗工事売上等)や各種引当(債権貸倒引当等)及び保有資産(店舗資産、システム、ノウハウ等)などにつき、会計監査人の指導のもと、財務状況をより適切に開示できるよう計上基準等の見直しを実施致しました。それらにより大幅な業績予想の修正を余儀なくされたことをお詫び申し上げます。

売上高においては、中間業績の修正理由と同様に、全業種において既存店売上高が計画を下回っていること、及び期中の新店出店及び新業態開発が遅れていることを主因として、外食事業で10,000百万円、スーパーマーケット事業と店舗工事事業で各5,000百万円、それぞれ期初計画を下回ることとなり、結果170,000百万円の見込みとなりました。

経常利益につきましては、売上高と同様の理由に加え、加盟金やFCロイヤリティ等の当社グループの収益のうち最も利益率の高い事業において計画未達になったこと、また、販売促進費の増加、人件費の増加等により外食事業・店舗工事事業で2,100百万円、CVS事業で1,200百万円、スーパーマーケット事業で500百万円、物流事業で300百万円、それぞれ計画を下回り6,400百万円となる見込みです。

当期純利益につきましては、経常利益が計画を下回ることによる影響のほか、冒頭で述べました特別損失の内容にありますように、中間期で厳密に資産性を考慮し特別損失を出したのもの等で3,390百万円、期末段階における店舗資産等の減損会計による特別損失や実験業態の改廃による店舗除却損等を保守的に見ることで1,300百万円、昨年導入した国産牛在庫の賞味期限切れによる特別損失約800百万円等の悪化要因により、0円となる見込みです。

## 5. 平成18年12月期個別業績予想の修正

### (1) 当中間期(平成18年1月1日～平成18年6月30日)の業績予想の修正

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	1,300	300	200
今回修正(B)	2,010	525	509
増減額(B-A)	710	225	309
増減率	54.6%	75.0%	154.5%

### (2) 通期(平成18年1月1日～平成18年12月31日)の業績予想の修正

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	2,600	600	500
今回修正(B)	3,846	646	528
増減額(B-A)	1,246	46	28
増減率	47.9%	7.7%	5.6%

## 6. 修正理由

純粋持ち株会社制度に移行したことにより、より経営の実態を表せるよう各事業会社からの配当金収入を従来の営業外収益から売上高への計上に変えたこと、及び各事業会社からの業務代行収入が増加したことによる修正であります。また、中間期と通期において経常利益及び当期純利益の伸張に差があるのは、各事業会社の営業状況等を勘案し、配当性向を見直すためです。

この度は連結・個別ともに業績予想において大幅な修正がございましたことを、心よりお詫び申しあげます。現段階での最新の認識を元に、今後継続的に発展し続けられる企業体となるべく、経営戦略の刷新に鋭意取り組んで参ります。なお、当期純利益も大幅な下方修正となりましたが、配当金については現段階では中間期・通期ともに従来どおりの水準で実施する方向で検討中があります。前期末に1:2の分割を実施しておりますので、中間・期末ともに1株625円となります。

以 上